# ふくしま県人会だより

第２３号
平成23年1月
福島県人会
北海道連合会

## 新年を迎えて

会長　熊坂　成剛

明けましておめでとうございます。

ご健勝で新しい年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年一年間の県人会連合会に対する会員皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、各地域の県人会がそれぞれ独自の活動をなされ、数多くの実績を残されております事は、なんと言っても県人会の歴史と伝統の中で培われたものと推察し、その努力に敬意を表するものであります。

私も連合会長になりまして二年目と言うわずかな期間しか経験しておりませんが、皆様のご協力を頂きながら連合会の発展に貢献できますように取り組んでまいりたいと考えておりますので本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、民主党へと政権交代はしたもののリーマンショックによるアメリカを中心とした経済不況がなかなか回復の兆しを見い出せず、加えて円高ドル安の状況が続く中でギリシャの通貨不安が経済回復を遅れさせました。

国内経済も世界的な経済の上昇が見られないことをそのままに反映しており、デフレ傾向も見える中で企業がなかなか力をつけることができない状況です。この様な事は母県福島にあっても道内各地の県人会の地域にあっても同様の傾向の見られるところであります。

また、高齢者の所在不明が社会問題化したり、夏の猛暑続きが様々な状況や問題を巻き起こしたりしたものでした。

一方、昨年は、北海道生まれの北大名誉教授の鈴木章さんがノーベル化学賞を受賞すると言う明るいニュースもありました。更に十二月には、東北新幹線八戸・新青森間が開業しました。これで青森までが開通し、平成二十七年度末には北海道新幹線は新函館・東京間が開業となります。母県との距離が一歩一歩短くなります、県人会も札幌までの新幹線着工の陳情も行ってまいりました。しかし北海道の水産・農業産品を中心とする貨物輸送も見過ごすことのできないこととして注目してまいりたいと思います。

この一年が道内各地の県人会の発展に繋がり、それを基礎に道連合会が発展するような相互関係を作り出せるようにしたいものです。

この一年が明るい年となりますよう、皆様とともに祈念いたします。

また、これからも厳しい寒さが続きますので健康に留意されますようにお祈りいたします。

## 新年のごあいさつ

福島県知事　佐藤　雄平

新しい年の初めに当たり、福島県人会北海道連合会の皆さんの御多幸を心からお祈り申し上げます。

昭和四十八年の発足以来、皆さんの県人会が、ふるさとを同じくする方々の心のよりどころとして、会員相互の交流を深めながら、着実に発展を続けられておりますことは、誠に喜ばしい限りであり、会員の皆さんのふるさとを想う御熱意に心から敬意を表します。また、皆さんには、日ごろそれぞれの分野で御活躍され、福島県の名を大いに高められるとともに、本県に対しましても格別のお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

人と人との関係が希薄になり、「無縁社会」とも形容される今日、幸いにして本県には、思いやりが生

み出す「ぬくもり」、地域社会のきずなが紡ぐ人と人との「つながり」、それらが醸し出す「やすらぎ」が生きております。こうした福島県の誇るべき「宝」を大切にしながら、活力のある元気な福島県を全力で築き上げてまいります。

新年の県政運営につきましては、県総合計画「いきいき ふくしま創造プラン」の下、「人と地域」を礎に「活力」「安全と安心」「思いやり」の3つを柱に次の5つの重点プログラムに基づき、多様な主体と連携しながら、効果的・効率的な施策展開に努めてまいります。

「子どもたち育成プログラム」では、子育て支援のネットワークづくりの促進などを通して地域の子育て力の向上を図るとともに、学力の向上、道徳教育の充実、健やかな体の育成に取り組んでまいります。

「産業の総合力発揮プログラム」では、県内企業の取引拡大の支援などによる地域産業の振興や景気変動の影響を受けにくく高い競争力を有する産業の育成、農林水産物の付加価値向上と新たな産業の創出を目指す地域産業の6次化を一層推進してまいります。

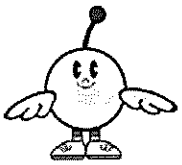
「低炭素社会づくりプログラム」では、県民総参加による地球温暖化対策や尾瀬・猪苗代湖等の水環境保全活動をさらに推進するとともに、木質バイオマスエネルギーの導入による環境と経済が好循環する仕組みづくりなどに取り組んでまいります。

「にぎわい創出プログラム」では、地域資源を有効に活用し、定住・二地域居住や足下の宝に光を当てる着地型観光の推進による交流人口のさらなる拡大、文化・スポーツ、過疎・中山間地域の一層の振興に努め、活力に満ちた県づくりを進めてまいります。

「健康、生きがい、安全安心プログラム」では、地域医療体制のさらなる充実を図るとともに、一人暮らし高齢者など、社会的に弱い立場にある人たちを地域や社会全体で支え合う温かい県づくりに取り組んでまいります。

私は、一人一人が夢と希望を持ち、生きがいと幸せを実感しながら、福島県に生まれて、育って、住んで、本当に良かったと思えるような、素晴らしいふるさと「福島県」を築いてまいる考えでありますので、今後とも県政運営に対する一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限りない発展と、会員の皆さんの御健勝、御活躍を心からお祈りいたしまして、あいさつといたします。



## 特集 母県訪問

### 第十四回母県訪問記

札幌県人会　井上　専治

今回のコースは中通りと浜通りで、十月二十日から二十二日までの二泊三日で行われました。参加者は、札幌六名、函館一名、旭川三名、別海二名、事務局二名の総勢十四名と添乗員の十五名での訪問となりました。

千歳空港からの参加者は、福島空港到着後九時二十分マイクロバスで三春のさくら湖、三春ダムに。こんなに立派なダムがあるなんて、びっくり。そして滝桜を見学、途中柿の実に食欲を走らせて所有者の了解をいただき、もぎって故郷の味を楽しむおまけもありました。

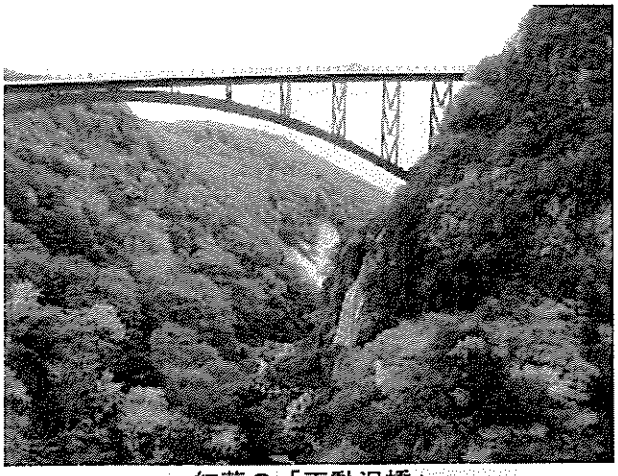
郡山駅で新幹線を利用して函館から参加の永橋さんと先に来ていた札幌の竹貫さんと一緒になり、まずは腹が減っては仕事が出来ぬと全員で昼食。その後、「母成峠」で訪問団代表の旭川県人会金子会長の挨拶と参加者の自己紹介があって、やっと二日目がスタートしました。

周囲の山々は紅葉一歩手前、磐梯吾妻スカイラインを通って高湯温泉へ向かう。高原の故郷の空気を満喫しながら、初日の宿泊地「花月ハイランド」へ到着する。

今回の母県訪問では、知事選挙のため例年の知事さんへの挨拶や知事公邸訪問は省略されたが、メインイベントである北海道事務所OBとの懇談会は時間を超えての歓談で昔を今に戻し、有意義なひとときでありました。

OBは十四名にお集まりいただき、訪問団の金子代表の挨拶、顔なじみの第八代所長佐藤豁さんの挨拶があり、三月までおられた第十七代所長の齋藤さんの乾杯で懇親会に入りました。

宴半ばでOBの自己紹介があり、在北海道事務所の想い出に花が咲き、それぞれの想い出の県人の名前も出て、近況もお知らせしました。



紅葉の「不動沢橋」

特に、事務所の所在地札幌の旧会長の現況について問い合わせが多かったです。

宴酣にて別海の白石会長の中締めで一層盛り上がり、時間の許す限り懇親が続き、お互いの健康を祈念して閉会となりました。ここまでが初日の全行程です。あとはそれぞれが故郷の湯につかり、昔に戻って、おのが現在を認識したわけです。

二日目の午前は高村智恵子の生家と第五十六回の二本松霞ケ城の菊人形展見学でありますが、この地は私の生地なので個人行動をお許しいただきました。

二本松市霞ケ城　日本一の菊人形展

『奥州二本松十万石の
　丹羽様違い棒の旗印
　　音にきこえし
　　よいしょ稚児さくら』

歩道拡張により生まれ変わった生家に挨拶に、そして級友にお会いでき、今回の目的を達成することが出来、その間一時間四十分。時間の貴重さを味わった人生の一ページでありました。

菊人形展入り口での記念写真撮影を終えて、マイクロバスは紅葉満つる街道を中通りから浜通り浪江へ、泉田川ヤナ場に直行しました。

残念、本日鮭の遡上が無いため、期待していた収穫無し。だが、地元の鮭料理の昼食は北海道とは違った美味しさがあり満喫しました。

地元の知人との巡り合わせに時を過ごした会員もおり、貴重な時間でありました。

次が「陶芸の杜おおぼり」で、陶器の見学と「絵付け」の体験です。私は生まれて初めての経験でしたが、参加者それぞれ頑張って製作しました。

出来た作品を見るまでは二～三週間かかるとのこと。不安と楽しみを抱きながら一生懸命打ち込みました。（十一月二十一日の札幌県人会観楓会で作品を手にしました）

マイクロバスは二日目の宿泊地、いわき湯本温泉「ホテルハワイアンズ」に直行する。

この宿での夕食もカラオケ付の宴会で締めくくり、全員でホテル自慢の「ポリネシアンダンスショー」を見学し、スケールの大きさにびっくり。

次いで、ホテル自慢の浴場巡り、湯窓から見下ろす街の灯りに疲れを癒し、二日目を終える。私としてはすべてが初体験でありました。

三日目は、先ず朝湯に身を清め、朝食後「いわき市石炭化石館」「アクアマリンふくしま」「いわき・ら・ら・ミュウ」を見学し、昼食。これまた美味しい故郷の味、土産を買い込んで帰路に着く。

まず郡山駅西口まで函館組を送り、飛行機組は「円谷幸吉メモリアルホール」を見学、次いで「はたけんぼ」で買い物をして福島空港へ。午後五時五分、『さらば福島よ！』となったのです。

知らなかった自分の生まれた故郷の「中通り、浜通り巡りの母県訪問」は、新しい体験ができた旅でした。

振り返り、各ホテルで飲んだビールが何故か「サッポロビール」であったこと、特別の配慮か？しかも仙台工場で作っているといった細かい気遣い。ビール党としては、飲み食いに満足した気配りでした。

改めて、毎回、企画・立案そして実行している県事務所の各位に御礼を申し上げたい。

そして、次回からもっと多くの会員が参加することを願って報告といたします。

## 母県訪問雑感

**函館県人会　永橋　保**

十月二十日から二泊三日の旅は、天気に恵まれない訪問地もありましたが、まあまあの旅行日和だったのではないでしょうか。けれども一日目の母成グリーンライン、磐梯吾妻スカイラインからの風景を視界不良のため俯瞰できなかったことは心残りであった。

私は二十日に郡山で合流しました。車内は総勢十五名、母県訪問という表題から察するに少し寂しさを覚えました。

鞍手茶屋での昼食では同部屋四人ビールで乾杯、出だしから、これから後の盛り上がりを醸し出していました。

浄土平までの道すがら、走行中の車窓からの眺望は、薄霧の中にもその風景を見ることがかなえられ大変良かったです。

秋の夕日に照る山紅葉とはいかなかったが、赤や黄色の色さまざまに織り成す錦秋の山肌模様は、私の心を暫く無念無想の境地に誘ってくれました。

母成峠の古戦場跡の碑を拝し、函館で馴染みの戊辰戦争、榎本軍の重鎮、大鳥圭介、土方歳三の記を見て、戦況我に利あらざるを想い、仙台（寒風沢）から榎本艦隊に乗り、蝦夷地（鷲ノ木）をめざして船

出したのだろうとの想いに耽りました。

スカイライン頂点、浄土平。北西に一切経山（一九四九m）、東方に吾妻小富士（一七〇七m）、南西に東吾妻山（一九七五m）、視界が悪く下界の俯瞰はできなかった。

私は浄土平の浄土の文字と一切経山の経の文字を浄土でお経と考えて、黄泉の国で念誦している自分の姿の白日夢を見ました。つばくろ谷からの谷間の眺めは、この日最高の錦秋の色彩りでした。絶景かな、絶景かな。

花月ハイランドホテル（標高八〇〇m）。視界が良ければ露天風呂からも福島市の遠景を見下ろすことが可能とのことでしたが、全くの視界不良で、霧の帳につつまれていました。残念無念。

夕食は宴会となり、各々得意とするカラオケで大いに盛り上がりを見せ、親睦を深めることができました。

二日目、二本松の智恵子の生家・記念館。文学音痴なので特に感想なし。

二本松城趾（霞ケ城公園）では菊人形展を約一時間ほど見学、菊花の展示は日本一とのこと。竜馬に関する菊人形が数多く展示されており、大河ドラマの影響の大きさに驚く。城趾に生い立つ松の木は、その枝振り、太さ、数において天下無双ではとの思いでした。

戊辰戦争では会津の白虎隊員よりも幼少の子供が参戦したとのこと、惻隠の情を覚えました。

さて、これから生まれ故郷の浪江に向う。二本松から四五九号線で南下、道すがら、一寸遠くに合戦場のしだれ桜がある。添乗員の説明によると、前九年の役の合戦場とのことでしたが、この役は岩手県（一関市、衣川、厨川辺り）での戦いで、福島県には及ばなかったと思っていましたので、誰か教えてください。

浪江には少なくも二年に一度は帰省しているので、懐かしさを感じることはなかった。請戸川（泉田川）のヤナ漁は鮭の遡上が少なく、地曳網漁が見られなかったのは心残りでした。

おおぼり相馬焼の絵付け体験

陶芸の杜おおぼりでは、一行中数人が体験学習でオンリーワンを作ったのは良い想い出になることでしょう。中学校の同級生が窯元で作品を展示している関係上、我が家の神仏の陶器と茶器は大方大堀相馬焼です。

次いで、当日の宿スパリゾートハワイアンズに常磐自動車道で直行。この宿は広すぎて、浴場、食堂、フラダンス会場への行き帰りに迷った人も出るほどでした。

昨夜と同様夕食は大変盛り上がり、カラオケで楽しみました。食事の後八時ごろから約一時間フラダンスショーを見学、私は初めて見たので目を見張るばかりでした。我が母県の目玉の施設であり、皆様に宣伝しなければと思っております。

いわき市石炭化石館（ほるる）。一世を風靡した常磐炭鉱も、石炭から石油へのエネルギー革命によってその使命を終え、三〇数年の時が過ぎました。これも栄枯盛衰、世の定めと言うことでしょうか。

アクアマリンふくしま。山里の小川に住む小魚から、大海に群れ居る様々な魚類、絶滅したと信じられていて一九三八年（昭和十三年）マダガスカル島近海で漁獲され、近年はインドネシアで撮影に成功したとされるシーラカンス等興味尽きなく見学することができました。ついでがあればもう一度行ってみたい所です。ら・ら・ミュウの昼食はやや期待はずれだった。

今回の旅行は総じて、予定どおりの時間で移ろうことができ、また、山あり、谷あり、川あり、海ありの途次、風光明媚を堪能させていただき、計画担当者の労苦に対して深甚なる謝意を表する次第であります。ありがとうございました。

## 第十四回母県訪問を終えて

別海町県人会　白石　政司

三年に一度の母県訪問に、前回に引き続き参加させていただきました。

今回は普段留守番役の妻との同伴の旅となりましたが、行く先々で感動する、すばらしい経験と、団員相互の温かい交流が出来ました事を心より感謝したいと思います。心に残ることは沢山ありますが、紙面の都合で少しだけ感想を記したいと思います。

行程第一日目は、日本一と思われる大木・老木の滝桜でした。春の開花期に是非機会を設けて観賞したいものと思っています。

次に「花月ハイランド」での夕食会には、歴代北海道事務所OBの方々十四名が県内各地より参加され、私達と懇親を深めましたが、北海

道での勤務・生活は気候と同様に厳しいものがあったのではないかと、心より労をねぎらい、お礼を申し上げる次第です。

第二日目は、二本松の菊人形が印象に残りましたが、あまりにもすばらしく表現の言葉が見つかりません。やはり日本一なのでしょうか。

夜は「ホテルハワイアンズ」に宿泊しましたが、部屋に入るなりフルーツのサービスがありました。私も国内外の旅行は数多く体験していますが、果物が大盛りで出てきたのははじめてで、さすが東北のハワイと感心し、二人で早速いただきました。また、建物が広大であり、朝食等では、自分の部屋に帰るのが大変だったのが想い出に残りました。

三日目、旅の最終日となり、いわき市石炭化石館、アクアマリンふくしまと研修し、「ら・ら・ミュウ」で福島県の浜の特産品を購入しました。その一部を紹介しますと、「めひかりのつくだ煮」「ずんだ豆福餅」「たい天ぷら」「清酒各種」等々たくさん購入し、家族のもとに送りました。

今回の母県訪問は三日間でありましたが、幸い天候にも恵まれ、無事終えることが出来ました。最後に私達十二名の参加者に種々面倒を見ていただきました事務局の方々に心より感謝申し上げ感想といたします。

ホテルハワイアンズで

## 事務局員の母県訪問記

北海道事務所　野崎　武統

はじめに、第十四回母県訪問におきまして快く団長をお引き受けいただいた旭川県人会の金子会長をはじめご参加いただいた十二名の会員、並びに県内各地より懇親会に出席いただいた事務所OBの方々には厚くお礼申し上げます。

詳細な訪問記は三名の参加者にご寄稿いただいておりますので事務局員として随行させていただき感じたことを簡潔に述べさせていただきたいと思います。

秋、福島の山間部では稲刈りの後天日干しされている稲が黄金色のカーテンになっている風景を見かけます。久しぶりにその様子を見て、新キャッチフレーズ「ほっとする、ふくしま」が思い浮かびました。大型機械が入らない小さな田んぼでは手作業でひとつひとつ丁寧に稲をはざかけをするのでこのような風景になります。もしかすると江戸時代と大きく変わらないのではないかと思われます。昔話の世界に入ったような里山を残しているのが福島の魅力であり、その風景が残っているというのも、決して有利とはいえない土地でも粘り強く耕し続けるという勤勉な県民性ゆえではないかと思います。東京のNPO法人ふるさと回帰支援センターが実施したアンケートで移住したい県第一位に福島県が選ばれましたが、福島の風景と住民の気質が他から来た人をほっとさせるからなのではと思います。地元に住んでいたときはこのようには思っていませんでしたので、母県訪問を通じて地元の魅力を再発見することができました。この経験を活かして事務所へ来所される道内のお客様に福島の魅力をもっとお伝えできればと思っております。

事務局員としては反省点も多かったですが、反省を活かしながら母県訪問はパワーアップしていきますので、機会がありましたら是非ご参加ください。最後になりますが、母県訪問に限らず、福島空港を活用して福島の名所、名跡においでいただければと思います。

# 会員通信

## 「もも」売りと「秋の集い」

苫小牧県人会　大槻　正吾

苫小牧県人会は、毎年八月に開催される「とまこまい港まつり」に福島県のPRを兼ねて特産品の「もも」を販売しております。この「もも」は伊達地方で生産される「あかつき」で、まつり期間中の三日間と予約販売で、毎年千箱（二十個入り）前後を販売しております。

今年で「もも」を販売して十余年になりますが、六月に入ると会員に予約の注文をお願いするとともに、七月には会長自ら現地で作況等の調査を行い、予約販売の日程等を調整しております。

この時期に出荷される糖度十二度以上の最高級規格「特秀」であるため、人気も高く毎年リピーターが増え、まつりの出展業者の方にも年々好評となり、開店準備前から予約の注文があるほどです。

とまこまい港まつりでの「もも」販売

今年は生産地が天候不順のため生育が遅れ、まつり期間中の販売が出来ないのではと危惧しましたが、関係機関の皆様のご尽力により何とか例年どおりの販売をすることができました。

まつり期間中は天候に恵まれて毎日の入荷分が早々に売り切れとなり、そのため前日予約の受付も実施し、最終日は、苫小牧市中央青果市場のご協力により翌日市場に出荷する分をいただいて販売しました。

まつりの三日間は、延べ八十名を超える会員のお手伝いをいただきましたが、今年は、太田北海道事務所長、八木橋副主査および各ご婦人にもお手伝いいただきました。

後日、「もも」の販売にお手伝いいただいた方の慰労と会員相互の交流を深めるため、苫小牧ステーションホテルで「秋の集い」を開催しました。三十数名の出席でしたが、得意のカラオケ、他県の民謡及び踊りと楽しいひとときを過ごすことができました。最後に会の愛唱歌「ふるさと」を歌う予定でしたが、時間がなくなり中止になるほどでした。販売をお手伝いいただいた太田所長にも大変お忙しいところ来賓として出席いただきました。

これからも、我々の「ふるさと」福島県をPRしながら、特産品の「もも」を販売し、少しでもふるさとに貢献できればと思っております。

私事で恐縮ですが、私の祖父と父は伊達で生まれ、明治三九年に北海道に移住しております。伊達産の「もも」を販売するとき、何か不思議な「縁」を感じております。

## 新会員紹介

**函館県人会**
岩崎弘芳（いわさきひろよし）郡山市
竹下正一（たけしたしょういち）

**旭川県人会**
佐藤　弘（さとうひろし）福島市

**苫小牧県人会**
渡辺伸太郎（わたなべしんたろう）田村市
加藤正広（かとうまさひろ）相馬市
森岡紀子（もりおかのりこ）会津坂下町
鏡　哲夫（かがみてつお）福島市

## 母県の動向

### 「フラガール甲子園」三月に初開催

映画のヒットから「フラガールのふるさと」と呼ばれるいわき市で、来る三月二十三日に高校生のフラダンスコンテスト「第一回フラガールズ甲子園」が開催されます。

本県からは湯本高校などの十チームが、県外からは宮城県、埼玉県、鹿児島県の三校が参加します。

フラからハワイの歴史・文化を学ぶほか、グループで踊る事で社会性を身に付けることや、踊りを創作する過程で想像力・表現力を磨くことなどをねらいとし、フラの基本「月の夜は」とタヒチアンステップの創作ダンス「オテア」で競います。

### 名馬ディープインパクトの仔馬「ユメカガミ」

福島県鏡石町にある岩瀬牧場には、北海道生まれでGI七勝の名馬ディープインパクトの仔馬がいます。

仔馬は新ひだか町生まれで、競走馬として育てられる予定でしたが、気性がおとなしく競走馬には不向きなため、調教師と親交があった当牧場で育てられることとなったものです。

昨年名前を公募し、町にちなんだ「ユメカガミ」と命名されました。

ユメカガミは鹿毛の牡で、現在一歳八カ月。性格はおとなしいが芯は強く、今後は馬術用の馬として育てられる予定です。

仔馬が三歳くらいになれば乗馬もでき、ディープインパクトの仔馬と間近に触れ合える牧場として人気を呼びそうです。

## 編集後記

昨年も北海道の農業は天候の影響を受け、二年続けて五百億円を超す被害を受けました。

五百億円という金額は北海道の農業産出額一兆円の五%ですが、福島県の農業産出額二千五百億円に照らしてみると、その二割に当たり、米に置き換えると福島県内の半分、野菜だと全部の産出額に匹敵します。

農村が豊かなことが地域の豊かさに繋がります。今年は天候が安定し、北海道本来の生産力が発揮される年でありますよう祈ります。